

基本課題1 男女共同参画を推進する教育・学習の充実(課題1～3)

課題1 学校等における男女平等の精神をはぐくむ教育の充実

No	施策	事業名	担当課等	実施計画内容	実施状況	問題点、課題等	担当課 評価	地域振興課所見	審議会の意見・評価	
1	保育所、幼稚園等の指導計画及び研修計画の点検、実施	保育所、幼稚園の指導計画策定	社会福祉課	各保育所、幼稚園で、毎年度始めに指導計画等を定める際に、男女平等の観点を視野に入れ策定する。	指導計画を策定した。各保育所において、遊びの際に男女別にグループ分けをしないこと、行事の役割分担の際に男女を区別した決定をしないことなどに配慮して保育を実施した。	保育において、男女で差別的な指導をしないことは、もはや当たり前という認識があり、施策あるいは事業について見直す必要がある。	A	なし	「問題点、課題等」欄の記載が多くなっているということは、少しは職員の認識は上がっているのではないか	A
			学校教育課	指導計画を策定した。南幼稚園訪問の際に、公開授業等を通して、男女平等の視点を入れて、活動を行うこと等を指導した。	今後も、男女平等の視点を入れて、教育活動を行うよう指導していく。	A	なし		A	
2	保育所、幼稚園等の教材・保護者へのたよりなどについて男女共同参画の視点からの点検	保育所、幼稚園だより等の点検	社会福祉課	保育所、幼稚園で購入する教材や毎月発行する各保育所のおたよりの中で、男女の性差を意識させるものがないかどうか点検する。	次の点に留意しておたよりを作成・配布している。 (1)当該月のお誕生日の子どもの名前を掲載する際に、「くん」、「さん」の使い分けをせずに「さん」で統一している。 (2)男女の既成概念を想像させないような表現にしている。 (3)父親も一緒に夫婦そろって保育所の行事に参加してもらえるよう啓発している。	保育所だよりによる行事等の周知について、多くの保育所においては、「ご家族おそろいでお越しくささい」という文面により案内しており、男女を意識させない表現であった。 なお、ひとり親家庭の児童もいることから、男女意識以上に、父・母を意識させない表現への配慮も行っている。	A	なし		A

2	保育所、幼稚園等の教材・保護者へのたよりなどについて男女共同参画の視点からの点検	保育所、幼稚園だより等の点検	学校教育課		幼稚園で発行されるおたよりをもとに、男女平等の視点について点検を行ったが、特に改善点はなかった。	幼稚園で発行しているおたよりを点検しているが、とくに性差を意識した内容はなかったが、今後も、園だより等の発行については継続して点検していく。	A	なし		A
3	保育士及び幼稚園教諭の意識の啓発	保育士及び幼稚園教諭の意識の啓発	社会福祉課	各保育所の職員会議において、男女の性差別的な事例がなかったかどうか話し合う機会を設ける。	職員会議や職員間の話合いの中で、事例が生じたときに話題にしており、性差別的な扱いしないことの意識啓発が徹底されている。その例として、多くの保育所において、子どもたちが使用する教材の色は、子どもたち自身の好みで判断させ、決めさせている。		A	なし		A
			学校教育課	幼稚園教諭研修会(1月21日)を通して男女平等の意識を高めるため、意見交換の場を設ける。	【計画変更:内容変更】 幼保小連携教育研修会を1月16日に実施し、男女平等等の視点からも教育活動に関わる指導者に指導した。74名参加	幼保小連携教育研究会の中で、男女平等等の視点を入れた教育活動について今後とも継続して研究する。	A	なし		A
4	小中学校の指導計画について男女共同参画の視点からの見直し	男女平等教育の実践活動への支援	学校教育課	学校訪問を通して実践例などを紹介しながら、現状と取組みについて指導・助言する。	学校訪問を通して道徳や保健体育等の学習と関連させながら、男女平等の視点で指導した。	各学校においては、男女平等の視点での指導が充実しており、継続して学校訪問をとおして指導を行っていく。	A	なし		A

5	男女平等感に立った教育的配慮	男女混合名簿の導入	学校教育課	栄中学校、下田中学校での男女混合名簿の導入を図る。	7月に完全に導入した。	A	導入が全市で完了し、施策が達成された。	・導入後の変化も把握する必要のあるのではないか ・そもそも何故名簿を導入されたのかの意味が理解されているかを確認する必要があるのではないか	A
		男女平等の視点に立った進路指導の推進		男女の別なく進路指導がされるよう、学校訪問を通して助言する。	学校訪問を通して、男女平等の視点から、進路指導がなされるよう指導、助言した。		今後も継続して指導、助言を行っていく。	A	
6	小中学校教職員、事務員等の研修の充実	研修会への派遣	学校教育課	県等で実施の研修会等の情報提供をし、積極的に派遣するよう学校訪問を通して働きかける。	・県と市が共催で、8月に同和教育研修会を実施し、70名余りの参加を得た。講師：義務教育課職員(心構え、差別とはなど基本から実践まで) ・8月に県同和教育研究協議会が主催の研究会への参加を呼びかけ、45名の参加を得た。(分科会での事例研究)	A	来年度は、他課も参加できるように検討してはどうか。	事例研究の内容確認と、男女共同参画の視点の内容の提案を是非して欲しい。教職員は「男女共同参画を表に出さないで欲しい」といった意識がまだある。県の男女共同参画担当課に対し、教職員の意識改革を働きかけて欲しい。	A

課題2 男女共同参画意識を高める様々な学習機会の提供

No	施策	事業名	担当課等	実施計画内容	実施状況	問題点、課題等	担当課評価	地域振興課所見	審議会の意見・評価
7	男女共同参画意識の普及	男女共同参画に関係するセミナー受講者への男女共同参画意識の普及	生涯学習課(公民館含)	対象:セミナー受講者 時期:通年 内容:男女共同参画意識を高める講義をセミナーの開始前に組入れる。 10回	13回 (「妊娠期子育て講座」「子育てサポーター養成講座」「男の料理教室」「勤労青少年ホーム青年委員会」など) (延べ292名:男性109名女性183名)		A	来年度も、より多くの回数を目指してはどうか。	土、日、祝日や夜間などの時間帯も配慮して訪問してはどうか。 A

8	学習参加者の市民活動への参画の支援	市民活動団体に関する情報の提供	地域振興課	セミナー等の受講者が市民活動につなげていけるよう情報の提供等の支援をするとともに、セミナー受講後、アンケートを行い市民活動へ参画しているかを3ヵ月後に調査する。	6月、7月に開催したセミナー受講者に受講後のアンケートを実施したところ、6月に実施した女性の人材育成(入門編)講座受講者の中から、地域活動に参加するようになった人が5人中1人いた。 12月に実施した講座については、アンケート実施し、集計中。	今後もアンケートを実施し、受講後も支援していく。	A	なし		A
---	-------------------	-----------------	-------	--	---	--------------------------	---	----	--	---

課題3 メディアにおける男女共同参画の推進

No	施策	事業名	担当課等	実施計画内容	実施状況	問題点、課題等	担当課評価	地域振興課所見	審議会の意見・評価
9	メディアを読み解き発信する能力の育成	「メディアリテラシー講座」の実施	地域振興課	対象:市民 時期:7月(全2回:平日夜開催) 内容:報道機関関係者と共に企画する、メディアを読み解き発信する能力の育成のためセミナーを開催する。 20名 また、開催した講座についてコミュニティFMで周知する。 コミュニティFM一年1回	「やってみよう!メディア・ウォッチング」 ～見て 気づいて それから...～ 対象:市民 時期:7月13, 27日 内容:メディアを読み解き発信する能力の育成のためセミナーを開催した。 受講者 6名 また、開催した講座についてコミュニティFMで8/9に周知した。	受講者が目標人数を大幅に下回った。 市民には取っつきにくい分野なので、単独講座形式は集客が難しい。 よって、別の講座の1コマに組み入れたり、出前トークの中で啓発したりと単独講座以外の形式を検討する。	C		講座名の言い回しを考え直してはどうか、「メディア」というと敷居が高い。 チラシの構成も良くない、見出しやイラストを工夫したり、身近に感じられるように作ってはどうか。 別の講座に組み入れる場合は、目的がぼやけないような配慮が必要。 C (講座の受講者が定員に満たなかったことや周知について改善するように)
10	市の作成する広報誌・出版物等における性差別につながらない表現の推進	男女共同参画の視点からの広報の手引き書の作成	地域振興課	三条市の「三条市広報マニュアル」のなかに、男女共同参画の視点からのガイドラインを作成する。	「三条市広報マニュアル」を作成しなかった。	三条市の広報マニュアルとして発行するよりも、男女共同参画担当から周知していくことを検討していく	C	なし	C